

学習環境のデジタル・ユニバーサルデザイン

Google Classroomを使った授業実践報告

和光学園 和光高等学校 林 陽介

近年、小中高等学校の教育現場で「情報化」という波が押し寄せている。その背景としては、学校や教室外での質の高い教育の確保や、学力向上に向けた取り組みの強化などが理由として考えられる。本稿では、そんな課題点を解決する試みとして、昨年度の1年生必修情報の授業で導入したシステムについて実践報告をする。

1. 本校の必修情報カリキュラム

本校の必修情報は授業終了ごとに課題を設定し、提出を求めている。その際、提出方法は、以下の3通りのパターンを提出課題の内容に応じて使い分けた。

- 自分のクリアファイルに入れて提出
- メールに添付して提出
- 共有サーバ内にあるフォルダに提出

昨年度は、1学期はメール作法の定着を目的とし、宛名や本文の書き方からデータの添付方法までを指導した。2学期以降はGoogleが提供しているClassroom^①を導入し、生徒に課題の提出を求めた。

2. 教育現場の情報化

教育の世界でよく耳にする反転学習を手助けするツールとして、クラウド型の教育管理システムの存在がある。教育プラットフォームの認知度は高く、実際に導入している学校もいくつかあり、身近な教育ツールとなっている。有名なものと言えば、CYBER CAMPUS^②やMOODLE^③などが挙げられる。最近では、2012年の3月に韓国で公開したCLASSTING^④と呼ばれる教育プラットフォームが日本の教育市場に登場した。PC、スマートフォン向けの学校SNSで、英語と韓国語にも対応しているため、日本だけでなく、アメリカやイギリス、シンガポール、カナダ、オーストラリア、フィリピンなどの英語圏でも利用されている。

3. 教師向け教室管理ツール Classroom

Classroomは、Googleがアメリカの教師の日に敬意を表してプレビュー版を公開した。Google Apps for Educationを使っていれば、誰でも利用できる教室管理ツールである。Google Apps for Educationとは、Gmail、ドキュメント、ドライブなどの生産性ツールを集めた無料のサービスで

あり、本校の教員用メールアドレスはもちろんのこと、生徒用の管理アドレスもこのサービスを適用している。

Classroomは近年モバイル・アプリもリリースされた。リリース後、生徒が和光メール(Gmail)やClassroomのアプリを活用して課題に取り組む姿が見られた。

4. Classroomの機能

Classroomの機能は、他の教室管理ツールに比べたら機能は劣る箇所もあるが、Google Appsやアドオン等で補うことができる。以下に5つの特徴を挙げる。

4.1 授業管理

1年必修情報の授業5クラスと、3年選択授業「プログラミング演習」の授業を担当している。授業ごとに課題の掲示や、お知らせ、生徒管理ができる。また、生徒は複数のクラスに参加することができ、各自で、科目ごとの課題や授業内容を確認することができる。

4.2 課題管理

授業内容に合った課題をクラスごとに設定することができる。同時に、提出期限の設定も可能である。提出期限に遅れた場合は、「遅延」の表示がされ、複数あるクラスの提出期限を管理するのは教師側としては困難であるが、Classroomを使うことによって、一括管理することができる。

4.3 資料の共有

課題提示の際、参考にして欲しい動画や画像、ドキュメントなどの掲示が可能である。Youtubeのリンクも貼れるので、TEDの映像や、教材になる動画を参考にし、課題に取り組むことができる。

4.4 一斉連絡

必修情報では、授業内容に合わせてコンピュータ室やマルチメディア室、視聴覚室、各教室で行うことがあり、移動教室が多い科目である。その際、移動がある場合は Classroom 内で告知ができる。また、生徒に参加して欲しいイベント等あれば、そこで告知することも可能である。告知された情報は和光メール (Gmail) を通して、生徒たちに送信される。

4.5 他の Google サービスとの連携

Classroom は一部の Google Apps と連携することができる。^{※表1} Google Drive を使うことによって、家庭の PC に Office がなくても、課題に取り組むことができ、文章作成程度であれば家庭で、スマートフォンで課題に取り組むことも可能である。また、Google Form を利用することでアンケートや確認テストなどを行うことができる。

表1 Google サービス一覧

	機能
Google Drive	クラス内で提出された課題を Google Drive 内に保存したり、Google Drive から直接課題を提出することができる。
Gmail	Gmail で教師から学生に連絡をすることができる。Classroom の画面から操作することができる。
Google Form	Classroom はテスト機能がないので、GoogleForm でテストを作成して、そのリンクを Classroom で共有することができる。

5. 必修情報を終えて

1 年間の必修情報を終えて、例年、生徒には GoogleForm を使用して授業評価アンケートを行っている。昨年度は、それに加えて Classroom を使ってみての感想を行った。その結果、約 87% の生徒が使い勝手がよかったと回答した。^{※図1}

生徒からは、「提出物の期限設定など、学習面に特化している部分も多くて、悪くはなかった。」「みんなが繋がっている感じがした。」「クラスのみんなが同じものを見られて、6 組だけの部屋のような感覚で面白かった。」「課題とか見やすかったし、自分が課題出しているか出していないかもすぐわかったから良かった」と非常に高い評価を得ることができた。

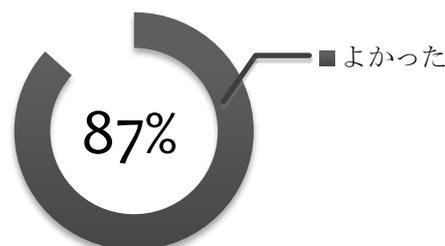


図1 Classroom を使ってみての感想

また、課題を提出する際、和光メールと Classroom ではどちらが使いやすいかについては、約 73% の生徒が Classroom の方が使いやすいと回答した。^{※図2}

生徒からは「提出ボタンがあって分かりやすかった。」「和光メールだと本当に課題が提出されたかどうか自分で確認することができないため、少し不安。逆にクラスルームだと、『完了』と表示されるので安心できるから個人的にはクラスルームのほうがいい」「Classroom はももとの書き込むところがあるから、課題に取り組みやすい。みんなと書き方が違うっていうことが少ないから安心。」といった講評を得た。

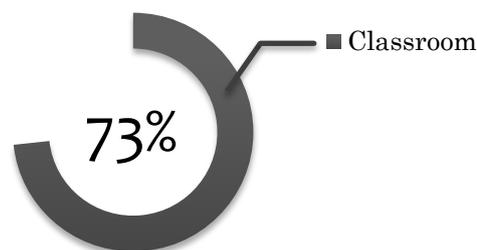


図2 課題の提出のしやすさ

これらの結果や感想などから、提出期限を意識しながら課題に取り組んでいる。逆に、自分が課題を提出したかどうかの管理に不安を感じている。

今後も、生徒が迷うこと無く、安心して学習できるようなデジタル・ユニバーサルデザインの環境作りに専念していきたい。

参考サイト

- (1) Google - GoogleClassroom
<https://www.google.com/intl/ja/edu/classroom/>
- (2) CYBER CAMPUS
<http://www.manajin.info/>
- (3) MOODLE
<https://moodle.org/>
- (4) CLASSTING
<https://www.classting.com/>